

令和3年11月19日
(2021年)

保護者のみなさまへ

吹田市立千里第三小学校
校長 大西 智子

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

ほとんどの項目(設問)で平均正答率は全国値と比べやや上回り、良好な結果でした。

1. 「話すこと・聞くこと」の領域の「話の内容が明確になるようなスピーチの構成についての問題」では、資料を活用し目的や意図に応じて話している選択肢を適切に選んでいました。
2. 「読むこと」の領域では、回答を記述することに半数以下の児童が正解できず、課題がみられました。特に、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題」では、内容を大まかには理解しているものの、正確に読み取っていなかったり、資料の中から必要な言葉を用いていなかったりする割合が高かったです。
3. 「言葉に関する事項」の領域では、「修飾語と被修飾語の関係をとらえる問題」で、全国平均値を上回っていました。
4. 無回答率は、「内容を読み取り、要約しながら記述回答する問題」と漢字の書き取りに目立っていました。

☆国語科における今後の指導改善点について

比較的正答率が低かった問題は、文章で記述する問題です。書く力をつけるために条件を設定して文章を書いたり、自分の考えを順序立てて端的にまとめたりする活動に取り組みます。

●算数《概要》

すべての項目(設問)で平均正答率は全国値を全て上回り、良好な結果でした。

1. 「数と計算」では、平均正答率が全国値より大きく上回りました。小数倍や商が1より小さくなる整数÷整数に課題がみられました。
2. 「図形」では、平均正答率が全国値より大きく上回り、良好な結果でした。複数の図形を組み合わせた場合の立式や平行四辺形の面積の求め方を記述する問いに課題がみられました。
3. 「測定」では、条件にあう数値を選ぶことができ、良好な結果でした。
4. 「変化と関係」では、「単位量当たりの大きさ」について、「道のり」と「時間」の関係を立式することができ、良好な結果でした。「速さ」を求める除法の式では、商の意味の理解について課題がみられました。
5. 「データの活用」では、棒グラフの数量と項目について正確な読みとりをすることができ、良好な結果でした。複数のデータの比較やデータの分類については課題がみられました。

☆算数科における今後の指導改善点について

記述式問題について、無回答率が全国値と比べて低かったものの、式の意味理解や計算の求め方を説明する問題については、全国と同様に本校においても課題がみられました。誤答の特徴としては、指定されたキーワードを全て使いこなせず、結論づけまでに至っていない回答が多かったです。また、「データの活用」の問題においては、データの収集方法や統計的な問題解決の仕方について課題がみられました。

本校の対策として、「主体的・対話的な深い学び」を校内の研究テーマとし、今年度は「深い学び」に焦点をあてた活動に取り組んでいます。具体的には、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりする学習を各学年で行います。また、授業で公式やきまりを学習するときの理由や解き方、考え方が分かるようなノート指導も併せて行い、交流することで考えを深められるよう指導を行います。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向と今後の取り組み

〔規則正しい生活習慣〕

朝食を毎日食べている児童は全国値よりも高いですが、同じ時刻に寝たり起きたりする児童が全国値を下回る結果となりました。これは、通塾など習い事の有無が関連していると思われます。また、休校中に規則正しい生活を送ることができた児童も、全国値を下回りました。今後も、基本的な生活習慣を心がけて、元気に活動できるように、ご家庭と連携していきたいと考えています。

〔家庭生活の様子〕

学習塾などでの勉強時間も含めた家庭学習時間が全国値よりも大きく上回っていることが、学力調査の好成績につながっていると推察できます。しかし、放課後や休日、休校中に自分で計画的に学習を行う児童については、全国値を下回りました。吹田市の分析において、計画を立てて学習できる児童のほうが、いずれの教科においても正答率が高いことが分かっています。今後、児童が自ら学習できる力を身に付けられるよう、ご家庭と連携していきたいと考えています。

携帯電話やスマートフォンの約束をご家庭で決めて、それを守って使っている児童が全国値を上回っています。テレビゲームをする時間については、全国値よりは下回っていますが、かなり長時間利用している児童もいるようです。吹田市全小中学校では、今年度より、よりよいデジタル社会の担い手として育つようにデジタル・シティズンシップ教育に取り組んでいます。その中でメディアを自分にとってバランスよく利用することについて、授業でも取り上げています。ご家庭でも話す機会を作っただけだと思えます。

〔自己肯定感〕

自分のよいところを見つけられている児童は全国値を上回っていますが、人の役に立つ人間になりたいと考える児童や、将来の夢や目標を持っている児童は全国値を下回っています。昨年度から感染症対策で、行事や異学年交流、委員会活動などが縮小されている中ですが、日頃の授業や学級活動を通して、自分を表現したり役割を果たしたりなど達成感を高めていく指導を進め、自分の夢や目標を見つけるきっかけをつかんでほしいと願っています。

〔学校生活・授業〕

学校が楽しいと回答する児童が全国値を大きく上回りました。また、自分の考えや思いを表現できる場面があると回答する児童が全国値を上回りました。本校の6年生は、大阪府の加配を活用し、学級数を増やすことで1学級の人数が少なくなっているため、活動の中で自分を表現できる機会がより多くなっており、これらの結果につながったと考えられます。

いじめはどんな場合でもいけないことだと肯定的に回答する児童が、前回(2019年度)と同様に高い割合を占めています。この結果は、いじめ予防授業を行う中で、いじめをなくすことを真剣に一人ひとりが考えてきた成果だと推測されます。今後もより一層意識を高めていくために、道徳の授業や

いじめ予防授業等を充実させ、いじめを許さない心を育てていきたいと考えています。

国語や算数で学習したことを生活の中で活用できないか考えたり、授業の内容が将来社会で役立つと考えたりする児童が全国値と比べて下回りました。文部科学省は学習の意義や大切さを理解させることと、学習意欲を高めるために自ら学習課題を見つけ、解決する力をつけることを示しています。本校でも学習することの大切さを伝えて児童自らが主体的に授業に参加できるように指導し、日常生活や社会の事象と関連させた授業を展開していきたいと考えています。

自分の思っていることを言葉で表すことができる児童、そして、国語や道徳、英語、学級会などで、話し合い活動に取り組んでいると回答した児童が全国値を上回りました。一方で、友達の考えを聞くことには少し課題が見られます。本校では、児童の「自ら考え伝え合う力」を育てることを主題として研究を進めています。感染症対策で制限はありますが、今後も考えを交流する機会を各教科の活動に取り入れ、友達とつながったり、自分とは異なる考え方を交流したりすることで学びが深まることを実感させていきたいと考えています。

今後とも、子どもたちの自律と幅広い学習の機会をつくるために、ご協力をお願いします。